

Book Review



デンタルハイジーン別冊 あなたの歯科医院に障害のある 患者さんが来院したら？ 歯科衛生士のための障害者歯科入門

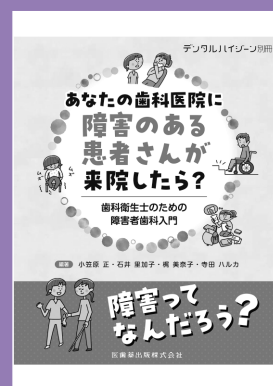
小笠原 正・石井里加子・梶 美奈子・寺田ハルカ 編著



Reviewer

向井美恵 Yoshiharu Mukai
(昭和大学名誉教授)

AB判, 160頁
カラー
定価 3,850円
(本体 3,500円+税 10%)
医歯薬出版刊



本書は障害のある人に対する歯科臨床対応について大変充実した書籍であるが、一方で、非常に平易な文章でわかりやすく書かれており、初心者でも学びやすい配慮がなされている。すでに障害者歯科に携わっている歯科医師、歯科衛生士にも、日頃の臨床経験をふまえて改めて障害のある人の歯科医療の基礎を学び直すことで、気づくことや理解できることが大いにある好書である。

「こんな本が欲しかった」と考えるのは、私だけではないと思われる。本書の最大の特徴は一般歯科診療所の歯科衛生士にわかりやすく、興味をもってもらうために、カラーの写真・図・イラストを多用。明るくポップな色使いとイラストが豊富なことにある。さらに、今日の障害のある人の多様な生活背景、育児担当者や支援者の思いがこの冊子の背景に常にある、その認識のうえに内容が構成されている。

内容のポイントをあげると、Part 1では、障害について理解するための多様な基礎情報が記載されている。ライ

フステージに応じた患者さんや保護者の生活背景や心理的な状況・変化などを理解しながら歯科診療にあたることができるよう配慮されている。Part 2は、障害のある患者さんとうどう接すればいいかの基本的なスキル、Part 3では、障害・疾患を知るための疾患特性と診療上の注意点・ポイントが、いずれも最新の情報と歯科衛生士目線で記載されている。

本書で特筆すべきは、Part 4の「どうする？ どう考える？ 障害者歯科の困りごと」である。障害者歯科の臨床で歯科衛生士のみならず歯科医師も遭遇する19項目をピックアップして、困りごとの内容をイメージしやすいよう2コマ漫画と見開き2ページで簡潔に回答する形式で掲載している。歯科衛生士が歯科医師と一緒に、困りごとの対処法について相互理解の上に臨床対応するのに最適な回答が得られるだろう。歯科医院の現場で対応しなければならぬ症例に当てはめて対応法を選択できるのが有用である。

これからも障害者歯科医療は、患者

さんの予後やQOLの改善に大いに寄与していく医療領域である。本書は、患者さんや保護者の生活背景を十分理解し、それらの方に寄り添う歯科医療を提供したいとの趣旨から、大半の関係する箇所を歯科衛生士が歯科衛生士目線で執筆している。そして、歯科医療スタッフがもっと障害者の歯科医療を積極的に担い、医師、看護師をはじめとする医療スタッフや、生活を担う介護スタッフの問い合わせにも回答できるように、全編にわたって重要ポイントを簡潔に記載するスタイルが貫かれている。

このように、本書には今日の障害者の歯科医療領域における現状について有益な情報が詰まっており、歯科衛生士だけでなく、障害者歯科の臨床経験を積んだ歯科医師にも有用な書籍である。また、幅広い知識とスキルを身につけたい歯科職種以外の医療、介護・福祉職種の皆さんの要望にも十分に資するもので、ぜひ一読を勧めたい。